

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470501418		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	グループホーム潮風		
所在地	三重県津市阿漕町津興214番地2		
自己評価作成日	令和2年度3年2月12日	評価結果市町提出日	令和3年4月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470501418-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 3 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染防止対策として、面会時の制限等例年とは違った関わり方となっているものの潮風の基本的な考え方は変わっていない。ご家族をも含めた大家族として捉えている中では、家族的な関わり方が日常となっている。近隣の入居者が多く、潮風とご家族との迅速な情報の共有、情報の交換等が可能となっている。手作りの家庭料理、行事に応じた料理やおやつ等を、職員・入居者・同じテーブルを囲み、毎日一緒に楽しんで味わい、心も身体も温かく、健康寿命を延ばして頂けたらと思っています。津生協病院在宅医療部との連携により緊急時の密な医療体制も構築しています。場合によっては主治医の指導の下、慣れた環境となった潮風でご家族・職員に囲まれた中で、心穏やかな終末期・看取りケアも可能となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関前は、日当たりも良くテーブルと椅子を配置し、利用者が座っていると住民が立ち寄り楽しそうに会話をしている姿が見られる。当日部屋の窓を開ければ海風が冷たく感じられ四季の移り変わりを肌で感じる事が出来た。立地が海岸に近い為、津波に関する危機意識が強く災害の備えを事業所、関係者、地域と一緒に災害に備えている。現在はコロナ禍で行事計画が延期や中止になる事が多いが、運営推進会議の一環として、家族や関係者を迎えた懇親会で、潮風特製の手作り栗きんとんとお茶でおもてなしを行い、自粛生活の中でも事業所をアピールできた楽しい交流会の開催となった。コロナ禍ではあるが、この催しのように、一人ひとりの思いを大切に、地域との繋がりを重視し、笑顔ある暮らしを提供し、利用者の思いを引き出そうと前向きに取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに(訪問制限中なので) 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない(コロナ禍の中なので)	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援、笑顔溢れる暮らしを大切にしている。入居者を中心にご家族、職員が思いをひとつにした日常的な関わりの中で、我が家に居るようにのんびりとした過ごし方を実践している。	一人ひとりの想いを大切にして、安心安全で自立した生活が維持できるようにそっと寄り添っている。理念を常に意識して利用者・家族の笑顔を励みに、事業所の暮らしが安定につながるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で一部制限はあるが、基本的な方針としては地域を交えた交流を実践している。毎年恒例手作り減塩味噌作り、防災教室や災害備蓄食品の試食会、又、ご家族を講師に招いて干支の置物作りも定着してきています。	コロナウイルス感染症の為、面会及び訪問を制限した時期もあったが、利用者は地域住民の方が多く、地域の方々と日々触れ合う事が多い。野菜等を栽培して届けてくれる住民もあり、自然な形で地域密着となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時に地域の方が相談に来られたり、地域の中での認知症専門施設としての役割を担えるようになってきました。コロナ禍で一部制限はありますが、専門施設として分かり易く、情報発信出来るような勉強会も工夫しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	潮風の近況、現況報告、地域内のリアルタイムな情報共有、必要な情報交換を実施する場として定着しており、解決に向けた話し合いの機会となっている。介護事業所として、情報を発信したり、必要な学習会を開催するようにしている。	コロナウイルス感染症対策に伴い、計画どおりの開催は出来ず職員のみでの開催とした。構成員には事業所の近況報告や今後の予定等を紙面で報告(管理者が手渡し)している。コロナ禍の試みで運営推進会議の一環として干支の置物づくり、懇親会を開催、楽しい交流会となり現在の事業所を知ってもらう機会となった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的な相談や疑問に対して気軽に相談できる場所となっている。その都度分かり易く適切なアドバイスや指示が頂けるのでとても心強い。	コロナウイルス感染症対策や防災危機管理等について相談する機会があり、気軽に話し合いが出来る関係である。また、介護保険の更新申請代行等で市役所窓口に出かけ、協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについて、潮風としての指針、その具体的な例を示したマニュアルを常備しすべての職員の共通認識としている。個々の危険の回避、安全対策を講じる方法等、ご家族の要望も踏まえて随時検討するようにしている。	身体拘束保護マニュアル(潮風独自の指針)を基に、身体拘束会議を年に6回開催し職員のレベルアップに取り組んでいる。中でも言葉の拘束については、情報共有ノート・ヒヤリハットを参考に事例検討をして、全職員に支援の周知を徹底し前向きに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法律の内容、課題背景を示し、虐待のない介護を徹底するようにしている。介護リスクを全体の問題として捉える中で、情報を共有し、職員の介護ストレスが虐待に連鎖しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム潮風においては日常生活自立支援事業等の関わりもなくパンフレットで認識を深める程度、成年後見制度については現在対象者もなく、マニュアルを常備して制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に至るまでのプロセスを伺う中で、ご本人やご家族の思いや希望等を十分傾聴し、話し合いを深めるように努めている。潮風とご家族が思いをひとつにした相互理解をした上での契約としている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で思いを言い出しやすい雰囲気を中心にしている。一方で面会の機会や文書発信等を利用してご本人の状態や近況を示す中で、ご家族の思いや希望を聞かせて頂き、要望の実現に向けた支援を工夫している。	日々の関わりや面会を利用して近況報告をし、家族の要望を聞けるような雰囲気づくりを工夫して意向を確認している。コロナ禍の為感染症対策を充分に取りながら、面会希望者には自室面会を実施して家族との信頼関係がさらに強くなっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で情報の共有、情報交換を密にしている。情報共有ノートを日常的に活用し、その時々々の意見や提案、困りごと等をリアルタイムで記入し、その都度の問題解決へと繋げている。	管理者は職員が意見を言いだしやすい関係づくりに努め、情報共有ノートの活用・話し合いの時間を持つなど情報交換を密にして、良好な関係が築かれている。業務・支援関係の相談が多いが、早いうちに改善への対応をする事でモチベーションの向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り、個々の職員のライフスタイルを優先した勤務体制を実現している。個々の職員のモチベーションが高められるような支援を心掛け、頑張った職員が報われるような賃金体系へと繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	苦手分野ある職員には、力量のある職員や管理者が克服に向けたサポートを心掛けている。その内容については全体の問題として捉え、話し合う機会としたり、内部学習として取り上げる等、資質の向上に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍であり、潮風としては入居者・職員の命を守る行動を最優先課題としている。コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている中では外部との接触・交流等の見合わせ等の制限を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントした情報等を含めた中で、本人の願いやご家族の思いをゆったりと傾聴するように心掛けている。寄り添う中で信頼関係を築き、安心感を持って頂けるような関係作りへと繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでの苦悩や葛藤をゆったりと傾聴する中で、不安に思っている事を把握、本音を吐き出して頂けるような対話を心掛け、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	表面的な訴えだけに捉われる事なく、対話している中から真に必要な事を見極めていく。相談内容を傾聴する一方で専門職としての見解を示し、必要な支援へと繋げていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の家事など個々に出来る事は職員と協働で行って頂き、共に仕事をする中で得意を發揮して頂いている。そのような機会がご本人の意欲を引き出し、自信の回復、生活力の喚起へと繋がっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者、ご家族、職員がひとつの家族であり、日常的に気軽な交流となっている。ご本人にとっては潮風が我が家であり、ご家族にとっては実家でもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人やご家族からの情報等を聞かせて頂く中で、今迄の本人を取り巻く環境等を勘案、可能な限り入居までの関係が途切れないように、大切にしながらの支援に努めている。	利用者が楽しみにしている近隣住民の訪問や、地域の行事に参加して顔なじみの方々と会話する時間は、コロナ禍で機会は少ない。懐かしの近隣の梅の花を職員と見に出かけ、笑いある時間を作り馴染みの関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の身体状態と性格、趣味や職業など、今迄の生活環境を勘案する中で、相性の良い方を見極め、より良い関係作りへと繋げていけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により退居となった方、看取りをさせて頂いたそのご家族が立ち寄って下さったり、入居者の紹介をして下さる方もおみえになる。又運営推進会議、行事等にも参加して頂く等、日常的な交流をさせて頂いている方もみえる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族の思いや希望をしっかりと傾聴する中から、ご本人にとっての最適な方法を引き出していくよう努めている。	日常会話や家族からの情報をしっかりと傾聴し、利用者の希望や意向を情報共有ノートに記録し、職員間で共有して支援に取り組んでいる。意思疎通の困難な利用者には、生活歴から把握する様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や過ごし方など、ご本人、ご家族からの情報を基に、今まで慣れ親しんだ暮らし方が尊重出来るように常に心掛け、日々の生活に反映出来るように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の暮らし方や価値観を尊重した日課を工夫する中で、生活力の喚起が図れるような側面的な支援を心掛けている。その時々思いや希望を取り入れた過ごし方が可能となるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族がどのように過ごしたいと思っていられるか、聞かせて頂く中で、状態の変化に応じたリアルタイムな検討を重ね、本人らしい過ごし方の実現に向けた介護計画を立案している。	家族(計画書の白紙に記入依頼)や本人の意向を確認の為、全職員でアセスメントをし介護専門員が介護計画を作成している。看護師を含め全職員及び関係者の意見を参考に、3~6か月でモニタリング・カンファレンスをしている。状態変化があればその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を基本に捉える一方で、情報共有ノートを日常的に活用している。リスク管理に必要な情報の共有、特記の記録、個々の状態に応じたリアルタイムでの詳細な援助方法等、個別な支援、検討に活用し支援の充実へと繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人がその人らしく暮らせる個々に合わせたオンリーワン支援を工夫している。日常的にご家族との交流もあり、その都度の状況に応じた最適な方法を話し合う機会ともなっており、柔軟な対応が可能な環境となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	基本的には、地域の方、自治会、医療関係者、入居者ご家族との協力、交流ある中で社会性の充実を図る生活作りを工夫しているが、コロナウイルス感染防止対策の徹底を図っている今年度は外部との交流は制限したり見合わせたりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の入居者、ご家族の意向を反映した上で、協力医療機関による24時間の在宅医療サポート体制がある。定期往診・定期受診に加え随時の相談、診療体制も可能となっており安心出来る体制を構築している。	入居時に利用者・家族の意向を確認した上で、協力医療機関による24時間対応可能なサポート体制を取っている。協力医には定期的な訪問診療を受けて、従来の医療希望者には家族の協力で通院している。いずれも情報共有を適切にして安心して医療が受けられるよう支援している。歯科往診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関、特に看護師とは日常的に情報を共有している。リアルタイムな情報提供、情報交換を密にする中で、その都度適切な指導やアドバイスが頂ける、安心できる体制が構築されている。又地域の看護師との交流も多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、ソーシャルワーカー、地域連携室等との交流を日常的に行う中で、最善な対応が可能となるような関係作りの構築に日々努めている。人となりを含めた介護サマリーを作成し情報提供、療養生活を側面的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、日頃からご家族、主治医との話し合いを重ねるが一に備えている。一方で個々の終末期のあり方についての情報を職員間で共有、その方とご家族にとつての最善な終末期ケアに向けての意思統一を図っている。	利用者の身体状況を各職員が日常的に把握して、重度化や終末期の在り方について、本人・家族等と定期的に「重度化対応終末期ケア対応指針」で意向を確認している。看取り時期には、医師・家族・職員等関係者が、方針を共有して協力し合ってチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てず的確な行動が可能となるように、緊急時に必要なその対応方法を、全職員に具体的に示し、情報共有する中で認識を深めている。一方でその方法を事務所、施設内に具体的に掲示して、とっさの場合に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	具体的なその方法をリアルタイムで情報発信し、職員、ご家族、地域の中で情報の共有をしている。ご家族様には年1回9月に防災教室、地域には運営推進会議を活用している。今年度はコロナ禍である為、概ね文書での対応としている。	災害時の方針・事項書を作り災害の種類によって避難場所が決まっている。自治会の協力・話し合いで、津波時の避難場所を市営住宅と決めて、緊急時対応の仕方・AEDの使用方法は職員研修で修了済みである。防災意識を高める為訓練が重要と考え、職員は日々危機意識を心構え訓練には前向きであるが、コロナ禍で中止中である。	災害時において利用者の安全確保や避難がスムーズに行えるように、今後来るだろう災害を見据えての対応マニュアルの整備と、地域住民との合同訓練に向けて机上訓練を含め、更なる訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライバシー、プライド、人格の尊重については職員間で十分に意思統一を図って対応している。個々に応じたその人にふさわしい対応をその都度工夫している。	人格の尊重やプライバシーを守る対応を常に心がけ、全職員がその方に合った適切な対応を心掛けている。また、個々の生活歴を理解しその方に合った言葉かけには特に注意している。外出時の身だしなみは、本人の希望が重視されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気持ちに寄り添う中で、その時々 の思いを共有、共感し、真の思いが意思表示して頂けるように、側面的な働き掛けをその都度工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自信をもって生活して頂けるように、職員はさりげなく、その日の身体状態や精神面に配慮しつつ、ご本人の希望を取り入れた過ごし方が可能となるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着心地、安楽な着脱を優先しつつも、好みを優先した洋服をコーディネートさせて頂いている。ヘアスタイルも身だしなみとして、こまめに潮風カットを楽しんで頂いている方、行きつけの美容院へ行かれる方と、個々の希望にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	リクエストに応えたり、旬の食材を献立に加えたり、行事に合わせた食事やおやつ等、手作りならではの温かい料理を楽しんで頂いている。職員も同じテーブルを囲み、会話しながらの食事やおやつが楽しみな貴重な時間となっている。	近隣の方から頂いた旬の野菜や魚の食材で、職員と利用者が献立を考えて調理をし、共に食事をする事が利用者の楽しみとなっている。また配膳や下膳等本人の出来る事を手伝う事で、食事がより楽しい時間になっている利用者も多い。利用者が希望する行事食・たこ焼きづくりをして食事に関心を持って頂くような工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー、栄養配分、水分量、好み、主治医の意見等を勘案する中で、個々の摂取の目安を決めている。個々の口腔機能に応じた調理形態と好み等を考慮し、食事を楽しみとして頂けるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の残差物の除去、朝夕の歯磨き、うがい等必要な方法で口腔内洗浄、夜間は、歯ブラシ、コップ等はミルトン、義歯は外してポリドント、それぞれ洗浄後消毒している。個々の状態に応じた方法で口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意ある方曖昧な方を問わず特別な事情のない限り、昼夜トイレ使用を基本としている。気配や訴え時に随時対応、自然な排泄が可能となるように自立支援している。オムツ交換全介護者は定期及び随時に対応し清潔保持に努めている。	排泄チェック表に基づいて排泄パターンを把握し、利用者が行きたい時にトイレでの排泄をそっと見守る(本人のしぐさ等)支援に努めている。能力を勘案し、リハビリパンツや布パンツ使用を試みて、入居後に布パンツに改善した利用者が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを活用する中で個々の排泄リズムを確認、必要に応じた対応を実施している。一方で食生活を工夫して整腸に努めたり、腹部マッサージを試みたり、他の入居者と楽しみながら行える体操、歩行等を運動の機会としている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	健康管理の手段のひとつとして入浴を楽しんで頂いている。お湯をなみなみに入れてゆったり寛がれる方、熱くしてから出られる方、思い思いに楽しまれ、気分転換にもなり、健康維持に大いに役立っている。	利用者本人の希望(入浴剤の希望等)を確認し、週3~4回午後にはゆっくりとした入浴時間を提供している。入浴困難(拒否)な利用者には、好みのタオルや入浴剤を提供して入浴を楽しむ工夫をしている。また、その方に合った入浴方法で満足して頂く工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、日中は楽しみな時間を共に過ごすように心掛けている。気候の良い日には屋外に出て日光浴、季節を感じて頂く機会とし、体内時計を調整する事にも繋がっており夜間の安眠にも繋がっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋にて薬効、服用方法、薬害、リスク等の理解を深め認識を徹底している。日常の関わりの中で、いつもと違う微妙な変化を察知する視点を常に持ち、日々関わるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた家事を手伝って頂く中で、自信の喚起へと繋げている。職員も含めた大家族の中で、出来る家事を分担し協働する事が、自身の役割意識、連帯感が安心できる居場所へと繋がっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナウイルス感染防止対策を優先している為、外出等ご家族との関わり等についても制限させて頂いている。玄関前での外気浴等は日常的に実施しており、季節を感じて頂いたり、近隣の方とのふれあいの機会ともなっている。	現在はコロナ禍で充分な外出は出来ていないが、天気の良い日には玄関前のベンチに座り会話を楽しむ時間を健康の為に促している。また職員と近隣公園に出かける事は、生活の意欲に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族の意向に沿って対応させて頂いている。本人が希望されるもの、食べたいもの等をおやつに取り入れたり、献立に加えたり対応する中では、特に使い道もなくお金を所持される方も少ない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と知人との交流が活発に継続して頂けるように支援している。その都度の訴えに耳を傾けながら、その都度の思いの実現に必要な支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング、各居室には季節を感じて頂けるような落ち着いた掲示物を工夫している。入居者の得意を發揮して頂く場ともなっている。行事のスナップや個々の思い出の写真なども多く掲示してあり、満足げに眺めては会話の糸口ともなっている。	コロナ禍の状況を踏まえて、定期的な換気・消毒・湿度の調節を行い感染症予防対策に努めている。リビング兼食堂の周りの共用スペースにはソファが置かれ、ゆっくりと寛げる場所になっている。窓からは自然の光が差し込み、明るく暖かい空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングルームは日常的に集う場所となっており余暇の交流を楽しむ空間となっている。ソファは気の合う人とおしゃべりやご家族や知人とのふれあいの場ともなっており我が家のように思い思いに過ごされている。(コロナで一部制限)		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだこだわりの物を配置したり、楽しく過ごした思い出の写真等を掲示、落ち着ける場所となるように工夫している。ご家族や知人の来訪時にはお茶を囲んでゆったりと過ごして頂ける空間ともなっている。	自宅で使い慣れた物を持ち込み、居心地良く落ち着いて過ごせるように本人の希望を取り入れて整理されている。ベッド・テーブル・椅子・筆筒は備え付けであり、各室が個性的でゆとりある暮らしが出来るように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を含めた身体及び精神機能を勘案する中で、個々の動きに合わせた自立に向けた動線の確保を基本とし、安心して安全に過ごして頂けるような支援を工夫している。		